

【緊急声明】

JSCによる現国立競技場解体工事入札に強く抗議する

文科省の外郭団体で新国立競技場計画の事業主である日本スポーツ振興センター(JSC)は、ザハ・ハディド氏デザインの新国立競技場に対する多くの国民の批判・疑問を無視し、多少の縮小案によってこの国民的合意を得ていない巨大公共建築の建設を強行しようとしています。そのため今年度予算で70億円を用い、7月より現在の国立競技場を解体しようと、解体工事の入札を4月中旬締め切りで募集しています。

新国立競技場計画は、

1. 狭い敷地にぎりぎりの巨大なものを作り、防災上も不安。
2. 1,300億円の予算なのに少なくとも1,700億円の建設費が予想され、維持費・改修費も未来世代へのツケとなる。
3. 神宮外苑という歴史的な場所への配慮がなく景観を壊す。
4. スポーツ施設としても開閉式屋根、芝生の養生、可動式椅子など問題が多く、多目的だが使いにくさが予想される。
5. たった1ヶ月のオリンピック・パラリンピックのために70メートル超の壁がそそり立ち、市民生活が犠牲になる。など、専門家も含め、多くの人々からたくさんの問題点が指摘されています。

解体業者が決まってしまうと、私たちの「思い出の多いかけがえのない今の国立競技場を直して使おう」という希望はついでてしまいます。伊東豊雄、鈴木エドワード、古市徹雄、今川憲英、森山高至各氏など著名な建築家たちは、改修でじゅうぶん耐震性・機能性もアップできるといっています。

さらに難航して4月になっても公表されない新国立競技場の基本設計の行く末、実施設計や建設工事入札の困難などを考えると、いま国立競技場を解体することはオリンピック開催の担保を失うことにもなりかねません。私たち「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」は、これまでにJSCに対して国際デザインコンクールの募集要項作成の経緯や審査過程の公開などを求めてきましたが、JSCは私たちへの回答を遅らせながら、一方でこのような、市民合意を得ない工事を強行しようとしていることに、14,000人の賛同者を背景に、また納税者としても強く抗議します。

2014年4月5日

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会 共同代表
大橋智子(大橋智子建築事務所)
上村千寿子(景観と住環境を考える全国ネットワーク)
酒井美和子(デザイナー・まちまち net)
清水伸子(一般社団法人グローバルコーディネーター)
多田君枝(『コンフォルト』編集長)
多兎貞子(たてももの応援団)
日置圭子(地域文化企画コーディネーター・粋まち代表)
森桜(アートコーディネーター・森オフィス代表)
森まゆみ(作家・谷根千工房)
山本玲子(全国町並み保存連盟)
吉見千晶(住宅遺産トラスト)

メール info@2020-tokyo.sakura.ne.jp

ファクス 03-6380-8812

ホームページ <http://2020-tokyo.sakura.ne.jp>